

平成 29 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の里かるまい

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100052		
法人名	社会福祉法人 麗沢会		
事業所名	グループホーム 花の里かるまい		
所在地	岩手県九戸郡軽米町大字軽米22-42		
自己評価作成日	平成 29年 11月 24日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_det.ai_2017_022_kani=true&amp;fyosyoCd=0393100052-002&amp;refCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_det.ai_2017_022_kani=true&amp;fyosyoCd=0393100052-002&amp;refCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30年 1月 16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中心街からは離れ、高台にあるホームである。自然に囲まれており、天気の良い日は遠く八甲田山まで望める。施設は十分な広さもあり、開放的に作られたリビング、敷地内にはウッドデッキや東屋、小さいながらも菜園畑もある。小規模多機能ホームと併設しており、利用者同士顔見知りになることも多く、行き来ができる。また、職員も兼務である為、幅広く利用者さんを見ることが出来る。敷地面積も広く、小規模の方に散歩に行く事も多く、のびのびと生活が出来ている。行事などは、グループホームと小規模と合同で行うこともあり、利用者さんも楽しまれている。また、道路を挟んで隣には母体となる老健があり、昼夜問わず連携を図り緊急時等の協力体制を確保している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地から離れた郊外の高台にあり、法人母体の老健施設に隣接した開設9年目の事業所である。周辺は新興住宅団地はあるものの、民家が点在する程度で住民同士の暮らしの中での付き合いの希薄さから、町内会の活動も特になく、交流の難しさを実感している。同一法人の老健や通所リハビリと併設の小規模多機能ホームなどと一体で“花の里かるまい”を構成している。理念の「共に笑い、自分らしさを表現できる暮らし」を大切に、全職員による年度末アンケートで評価・確認し合い、日々のケアと一体となった理念の実践に取り組んでいる。職員は小規模多機能ホームとの兼務を生かして介護の連携、研修を行い、隣接する老健とは夜間非常時の対策を整えている。災害に備え自家発電機を備蓄しており、事業所を含む法人“花の里かるまい”が一体となって地域の高齢者福祉避難所の役割を果たすことが十分期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念について研修を行ない、共通の認識を持ち仕事に取り組みめるように努力している。玄関前や共有スペースに施設理念を掲示し、日々意識している。	理念「共に笑い、自分らしさを表現できる暮らし」を掲示し、職員同士で振り返り、年度末には全職員で確認し共有化を図っている。ミーティングや研修で理念につなげる日々のケアを取り上げ、特に“共に笑い”を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事(チューリップフェスティバル、秋祭り)を見学している。また、七夕会には幼稚園の慰問を依頼したり、夕涼み会を行い、地域住民へ参加を呼びかけている。また、地域のスーパーへ利用者とともに食材の買い物に行っている。	近くの小・中学校行事(学習発表会や体育祭)を参観しており、ホームの七夕会には小学生が来所し交流している。地区集會に施設を開放し、夏の「夕涼み会」に住民の参加がある。近所の方から野菜や花が届けられ、町内会長から各種情報が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の在宅介護の会、「ゆったり介護の会」より依頼があった際、職員が会に参加している。地域の人と交流を図るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回小規模多機能ホームと同時に開催している。営業成績や事故、苦情のリスクマネジメント、行事の報告等を行っている。	委員は町保健福祉課職員、町内会長、民生委員などで、小規模多機能ホームと合同で会議を行っている。事業所の行事に併せて実施しており、避難訓練では、緊急放送の音量など具体的な意見や助言が得られ改善を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には役場の健康福祉課の方に参加していただいたり、地域包括ケア研修等に積極的に参加し、情報交換を行っている。	運営推進委員である行政担当者からはホームの実情を理解して頂き、各種情報提供が得られている。また、包括支援センター主催のケア会議では、地域の情報交換が行われている。生活保護受給者がおり、担当者との連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。職員会議等の時間を活用し、身体拘束についての研修を行なうなどして理解を深めるようにしている。また、言葉使い等にも注意している。センサーを活用している。	法人の研修会やホームの毎月の会議で拘束について話題にし、「待つて」など言葉による行動抑制等の事例を取り上げ、職員間で留意し合っている。帰宅願望の方には寄り添い丁寧に話しかけるケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、研修等を行ない、意識付けをすることにより、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員の復命書を回覧し、権利擁護についての理解を深めている。また、県主催の権利擁護推進委員養成研修へ職員を参加させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、料金、サービス内容についての説明は行っている。また、身体状況に変化が生じた場合についても連絡を行っている。不安や疑問はいつでも話していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族さんが面会に来た際意見や要望を聞くようにしている。利用者さんへは普段の会話の中での意見や要望の吸い上げを行っている。出された意見、要望、苦情については検討を行い、サービスの質の向上に努めている。	ホームの行事や健康状態を載せた写真入りのお便りを2ヵ月毎に家族に届けている。寄せられた意見・要望は記録し職員間で共有している。「玄関先が凍結し危険」との声には、凍結防止剤を配布し、即時の対応をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、併せて業務改善会議を開催し、業務上問題となっていること、設備等に関することなどを出し合って話し合い、対策を検討している。	職員の意見は業務改善会議で取り上げ、炊事用具の更新や乾燥機の購入の他、研修受講、育児などに配慮した柔軟な勤務体制を進めている。加えて、必要に応じて管理者が個人面談を行った際にも、職員要望等の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議などを通じ、職場環境などの整備を図っている。勤務状況等に関しては、諸事情を考慮し出来る限り柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは職員を交代で派遣するよう心掛けています。また、復命書を回覧する事により、知識や情報を得るようにしている。内部研修も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属し、研修等に参加することで情報交換やネットワーク作りに努めている。今年度は県北ブロックの事務局を担当しており、研修等を通じて近隣施設と交流を図れている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される前に見学をして頂くよう促したり、利用者、家族さんと面談し、相談や要望を聞くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。初期の相談は主に家族からのものであり、その際、家族の思いを受け止め不安や要望、困っている事など十分に聞き取り、安心して利用していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族が何に困っているのか聴くようにしている。入所困難な場合には、他のサービスなどへの助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと共に生活を送っているという認識で業務を行っている。食事、掃除、洗濯等利用者さんの状態を考慮した上で一緒に行っている。また、畑の草取りや収穫等も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回の家族通信にて生活の様子や健康状態についての報告を行っている。また、面会時等近況の説明を行っている。身体状況等に変化がある場合、電話にて家族へ報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんと共に町内のスーパーへ買い物に行ったり、秋祭り見学へ参加し、そこで会った知人と交流する事もある。家族から依頼があれば外出等も許可している。利用者の友達が面会に来る事もある。	お祭り見学やスーパーの買い物の際に懐かしい方との出会いがあり、そこから新たな馴染みの関係が作られている。お盆の墓参りや正月に帰省をされる方、孫など家族が来所し歓談を楽しまれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルや人間関係を把握し、関係を悪化させないよう、職員が間に入るなどし配慮している。大きなトラブルなく、利用者同士が困っていると助ける姿も見受けられ、関係性は良好だと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時に対応している。何か困った事がある場合、相談にのる旨、話をしている。今までに退所された方からの相談はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの会話の中から出来る事ややりたい事を聞き取るようにしている。意思表示が困難な方に対しては、表情や行動を観察し、汲み取るようにしている。また、家族からも情報を得るようにしている。	入浴中の会話や家族の声から利用者の思いや意向を把握し、ケース記録や申し送りノートに記録し職員間で共有している。レクリエーション活動や体操などを共に行う中で、利用者が過ごしやすく楽しい生活となる様な支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談の際、情報を得るようにしている。また、面会時等家族さんからも情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は自分で行なっていたくよう声掛け、見守りを行っている。利用者個々がご本人のペースで過ごせるよう配慮している。異常時などは記録や申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有し、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1回見直しを行っているが、事故や苦情、その他心身の変化等がある場合、その都度見直しを行っている。職員会議でも計画内容について話し合いを行っている。	計画の項目に応じたプログラムチェック表に日々の様子を記録し、ケース記録や申し送りノートを用いて情報の共有を図っている。担当がカンファレンスシートをまとめ、皆で話し合ったうえで、ケアマネが家族の意向を聞き介護計画に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プログラムチェック表を活用し、毎日プランが実践されているかをチェックしている。また、ケース記録や日誌、申し送り簿を活用し、職員間で情報の共有を行っている。それらを介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、職員が対応したり、食事の好みなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関とも連携を図ったり、民生委員の方などとも関わりがある。行事などを通し保育園や地域の方の慰問等もある。そういった関わりの中から関係性を構築していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取り合い、かかりつけ医へ受診している。基本的に家族対応としているが、必要により送迎を行ったり、付き添い介助を行っている。その旨を家族さんへ報告している。	軽米病院・二戸病院・一戸病院をかかりつけ医としている。家族付き添いが原則だが5人は職員が同行している。家族にはホームの様子をメモで伝え、受診結果の報告を得ている。老健の看護師が定期に来所し日常の健康管理を担当している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤で勤務しており、利用者さんの状態把握に努めている。日誌や看護ノートを活用し情報を共有している。利用者さんの状態変化時には勤務外でも電話等に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供表を活用し情報提供したり、入院にいたるまでの経緯を報告している。入院中も病院関係者と情報交換を行い、状態の把握等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、利用者さん、家族さんと重度化した場合や終末期についての話し合いを行い、意向を確認しているが看取りまでは行っていない。協力病院や老健と連携を図り支援している。	利用開始時に「重度化の対応に関する指針」を説明し同意を得ている。終末期では、看護師・医師と話し合い、法人の老健施設への入所又は治療が必要な場合は入院としている。利用者や家族は、可能な限り長く見て欲しいとの声が多い。	軽米地区では、万全な訪問医療体制は整っておらず、ホームでの看取りは難しい現状にある。利用者・家族は、馴染んだ生活の場でのターミナルケア・看取り希望が多く、関係機関と連携し対応を検討される事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のフローを整備し、電話口に常備している。緊急連絡網を整備し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行なっている。内1回は消防立会いにて実施。もう1回は運営推進会議の際、実施し、委員のメンバーに評価してもらっている。併設の小規模多機能と共同で実施し、老健とも連携を図り行っている。	高台にあり洪水を除く、火災・震災・風雪被害を想定した避難訓練を消防・運営推進委員立会いで実施している。宿直を配置することで夜間支援体制を強化し、併設の小規模多機能と隣接の老健と連携した体制を整えている。	消防等立ち合い訓練での助言により職員はベストゼッケンの着用など積極的改善を図っている。ホームは自家発電機や備蓄品を備え配慮された施設・設備であり、老健を含む“花の里かるまい”の各事業所と一体となり地域住民の福祉避難所の機能を果たすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの尊厳や人格を尊重し、日頃の言葉使いや態度に注意している。職員会議や研修を通じて繰り返し確認を行っている。	入室の際は声がけをし本人の意思確認を図り、トイレ誘導時や失禁時も含め寄り添いさりげない声がけを心がけている。拘束・虐待や権利擁護の研修を行い、人格の尊重とプライバシー確保に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度声掛けを行い、本人の意思確認を行っている。日々の生活の中から、希望や思いを汲み取るように心掛けている。必要であれば家族へ連絡し、本人の意向を伝えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の状態を確認しながら声をかけ、本人のペースで過ごして頂いている。就寝や起床時間、食事など出来るだけ本人の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際、利用者さんと共に服を選んだり、季節や気温に応じた服装を心掛けている。朝の整容に関してもきちんと整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施している。また、誕生日にはリクエストメニューを取り入れ、本人が食べたいものを提供している。利用者それぞれに声をかけ、出来る事(野菜の下処理や軽作業など)を手伝っていただいている。	食材は配達されるほか、利用者と共に店に行き購入もする。近所の農家や利用者家族から野菜が届き、ホームの菜園ではトマト・ナスを栽培し食材として利用する。皮むき等の調理参加や食後の食器洗い・食器拭きを楽しんで活動している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻みやお粥など臨機応変に対応している。食事以外にもおやつ時間を設け、水分補給に努めている。水分量を取れない方へは本人の好みのものを提供するなど工夫をしている。チェック表を活用し、摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、介助にて行っている。うがい等でムセがある方は本人の状況を見て口腔清拭で対応している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が出来るよう、声掛け、誘導を行っている。訴えられない利用者に関しては仕草や表情を確認し、誘導を行っている。排泄チェック表を活用し、パターンの把握に努めている。	トイレで排泄する安心・自信・喜びを感じられる様、排泄チェック表により見守り、声かけ、誘導を行っている。自立は2名で、他はトイレ誘導や一部介助を必要とする。夜間はパットを使う方はいるがポータブルトイレを使用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとっていただいたり、運動量の確保などに注意しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回。15:30以降に行っている。基本的に曜日を決めているが希望や拒否がある場合は柔軟に対応している。	季節に応じ菖蒲湯・柚子湯を行っている。ポディーソープやシャンプーは個人毎に馴染みの品を使っている。週2回が原則だが「明日通院で入りたい」と言う方もおり柔軟に対応している。季節や体調により、足湯やシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの意向を大切に、過ごして頂いている。室内の温度管理にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで管理している。食事の際、職員2名で確認し、服薬をしている。薬の内容についてはケース記録へファイリングし確認している。また、薬変更時などは看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は外を散歩したり、畑仕事をしたり気分転換を図っている。日常生活に役割を持ってもらったり、レクや軽体操なども行っている。部屋でラジオを聴いたり、DVDをみたりされる方もいる。屋外レクなどにも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や季節の行事で外出する機会を設けている。また、家族より要望があれば外出も許可している。	日常的に戸外に出て、敷地内の散歩やスーパーへの買物、ホーム菜園の手入れを楽しんでいる。ドライブで花見(桜・チューリップ・芝桜)や紅葉狩りをしており、家族と外出・外食をされる方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、家族と相談し、ホーム預かりや本人もちとして対応している。小遣い帳をつけ、2ヶ月に1回家族通信送付の際、家族さんへの報告も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、電話を掛けたり、家族さんからの電話をつないだりしている。手紙のやりとりはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や、レクで作成したものを飾っている。近所の方から花を頂くことが多く生けたりし季節感を味わえるよう配慮している。ホールや各部屋にはエアコン、加湿器を完備しており、加湿に配慮している。部屋の照明も3段階になっており、それぞれ好きな明るさで使用している。	建物は小規模多機能ホームと繋がり、利用者同士の交流と散歩ができる空間となっている。床暖房、加湿器、空気清浄機により快適な環境が保たれている。手作り門松、ミズキ団子が飾られ季節感、生活感が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食事や作業テーブルを設置している。それぞれが思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったりラジオ、DVDプレーヤーなどを置いたりされている。小物類(置時計など)使用していたものを持参されおり、少しでも居心地のよい場所を作るよう支援している。	ベッド・エアコン・クローゼットが備品で、床暖房の快適な環境である。使い込まれた小物、家族写真、色紙、レク活動の作品が飾られ、居心地が良く工夫されている。転倒予防のため、畳に布団を用いている方が1人いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋が分からない方には目印をつけている。室内は段差もなく、共有スペースには手すりを設置するなどして安全に配慮している。		